

みなさま、お晩でございます。

私は仙台駅東エリアマネジメント協議会の会長を仰せつかっている林伸一と申します。本日は、ご多忙の中、「仙台駅東賑わいづくりセミナーVol.3 エリアマネジメントシンポジウム 2015in 仙台」に全国から遠路お越し頂き、誠にありがとうございます。僭越ながら、簡単にご挨拶を申し上げます。

仙台と言いますと、全国的には「杜の都」「仙台七夕」、今の時期ですと「光のページェント」が有名でしょうか。「杜の都」の代表として有名なのが、青葉通や定禅寺通のケヤキ並木でございます。「仙台七夕」は、仙台駅から名掛丁商店街、クリスロード商店街、一番町の各商店街を通って仙台市役所までの地域で開催されます。「光のページェント」は現在開催されておりますが、定禅寺通で開催中です。

これら仙台を代表する催し物は、すべて仙台駅の西口で行われております。

本日は皆様がいらっしゃっております仙台駅東口エリアと言いますと、今でこそ新しいビルが建っておりますが、かつては仙台市民から「駅裏」と呼ばれていた地域でした。と言いますのも、仙台市では、終戦後、昭和 20 年 7 月の「仙台大空襲」を受けた仙台駅西口エリアを中心に、戦災復興によるまちづくりが進められてきた結果、先ほどご紹介した定禅寺通など、新しい都市基盤が整備され、東北の経済・商業の中核としてこれまで発展をして参りました。一方で、仙台駅東口エリアは、戦災を免れたという経緯から、鉄砲町や二十人町などの伊達藩から続く古い地名や町割、街並みが残った一方、細街路や狭小宅地などがあり、西口と異なり都市基盤整備が遅れていました。

そのようなことから、仙台駅東口エリアでは、昭和 40 年代に入り、ようやく市施行による大規模な 2 つの土地区画整理事業が進められてきました。1 つがこの会場付近の仙台駅東第一土地区画整理事業であり、今から 20 年程前に完了致しました。そしてもうひとつがもう少し北側の仙台駅東第二土地区画整理事業です。仙台駅東第二土地区画整理事業については、つい先々月に完了し、この仙台駅東口エリアは 30 年以上、下手をしたら親子 2 代、3 代に渡り都市基盤整備が進められ、ようやく完了を迎えました。仙台駅の東西を合わせますと、実に 50 年以上に及ぶ仙台市のまちづくりが、ようやく、ようやくかたちが出来てきた、そのような感覚を持っております。しかし、私たちは、都市基盤整備が終わったこれからは重要だと思っています。土地区画整理事業の完了、それこそがまちづくりのスタートです。

このような考えから、2 年前に、地域の方々が東口を昔のように活気のある、暮らしやすい「まち」を目指し、地域が一体となったまちづくりを進めることが必要と考え、仙台駅東エリアマネジメント協議会を地域住民や事業者によって立ち上げました。設立後わずか 2 年しか経っていない当協議会がこのような場を設けることが出来たことに大変恐縮してはおりますが、本日のシンポジウムが、ご参加頂いた皆様の今後のまちづくりのお役に立つことができれば幸いです。

最後に、今回、本シンポジウム開催に当たり共催頂いている京都大学経営管理大学院の御手

洗先生、特定非営利活動法人まちづくり政策フォーラムさま、仙台駅東口商工事業協同組合さま、そして後援頂いている国土交通省さま、仙台市さま、全国エリアマネジメントネットワーク設立準備委員会さま、公益社団法人日本都市計画学会東北支部さま、日本地域政策学会さま、地域活性学会さま、宮城大学さま、そして事務局を補助して頂いている昭和株式会社さま、さらに本日ご登壇頂く皆様、並びに本日この会場をご提供頂きました松栄不動産さまに厚く御礼を申し上げまして、私のご挨拶とさせていただきます。

少々緊張しておりますが、みなさま、本日は誠にありがとうございます。